

築地市場における今夏のウナギの平均卸売価格予測

2018年2月26日時点

GD Freak「号外」

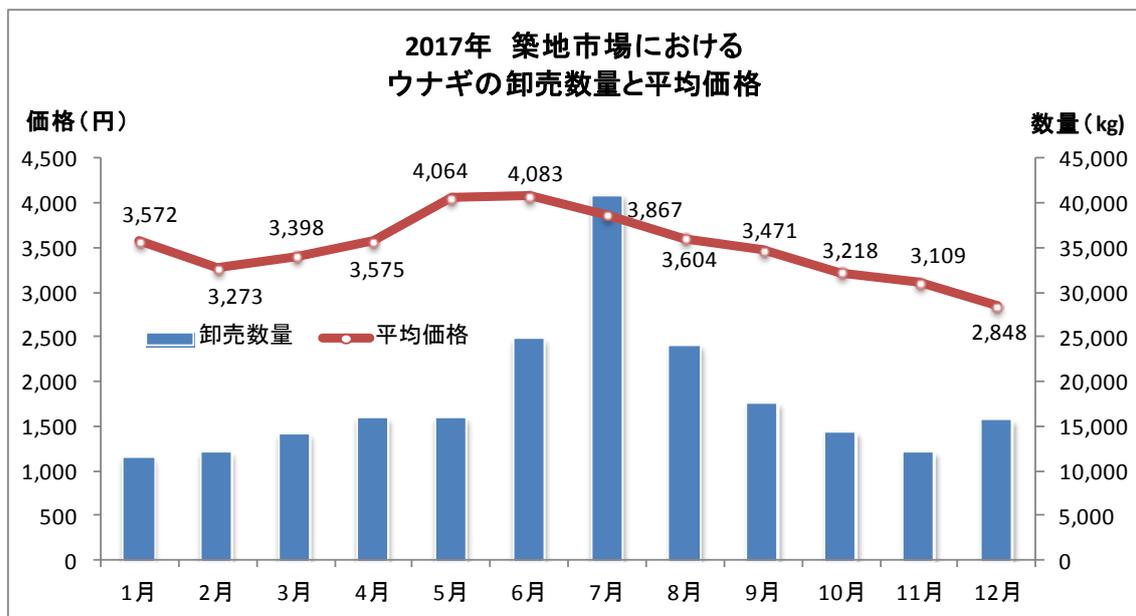
2018年1月時点で、シラスウナギの今季不漁が報じられていますので、この夏に築地市場で取引される数量が平年に比べ大きく減少した場合の卸売価格がどの程度まで高騰してしまうのか、簡単な予測を試みましたので、ご参考にして戴けたら幸いです。

1. 2017年の築地市場におけるウナギの卸売数量と価格

はじめに、昨年1年間の築地市場における生鮮ウナギの卸売数量と平均卸売価格の推移を見てみましょう。

ウナギはやはり「土用の丑の日」ということか、下図に示すように7月の数量が年間卸売量の約2割と圧倒的に多いわけですが、着目すべきは卸売価格で、一番高いのが6月、次いで5月となっており、7月、8月にはすでに下り坂に入っています。

昨年の7月についてみると、卸売数量は月間41トンで、2009年～2017年の7月の平均44.7トンと比べやや少なめでした。価格も3,867円で過去11年の平均より200円ほど高い程度、まあまあ平年並みといったところでした。

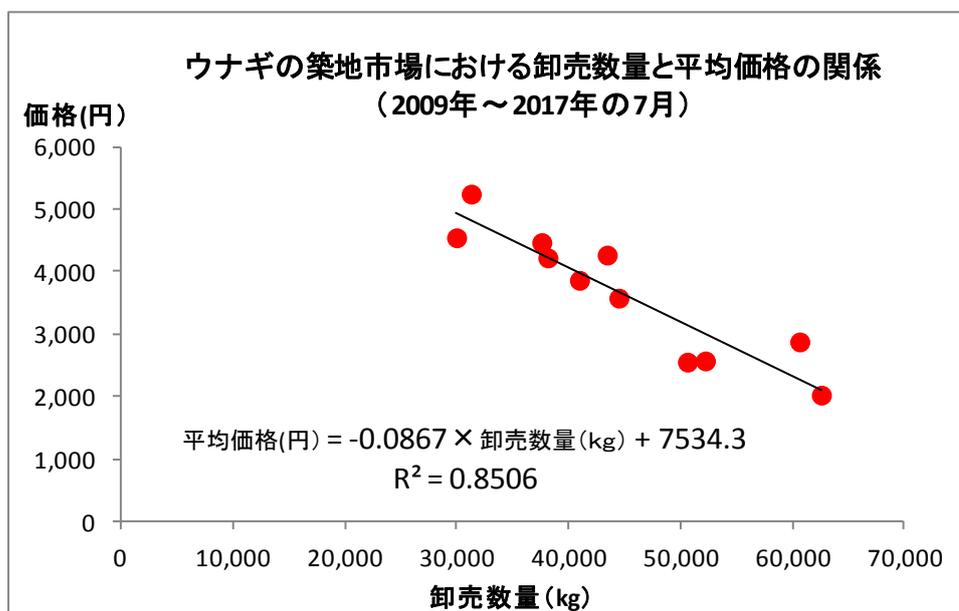


2. さて、今夏のウナギの価格は？

築地市場におけるウナギの平均卸売価格は、なにも卸売数量だけで、決まるといったものではなく、その時期の気候や景気あるいは消費者心理など様々な要素を反映したものと考えられます。

ここでは、素朴な方法ですが、価格と供給量の関係のみから、今夏7月の平均卸売価格を予測してみたいと思います。

下図は、過去2009年～2017年の7月の卸売数量に対する平均卸売価格の関係をプロットしたものです。やはり、卸売数量が多い年は平均卸売価格は低くなる傾向がみられ、各年の平均卸売価格の違いの8割強は、卸売数量の違いで説明がついています。



ここでは、今夏7月の卸売販売量について、いくつかのシナリオを想定し、それぞれのケースについて、平均卸売価格を予測することにします。結果は下表のとおりです。

	7月
前年7月比10%減	4,340 円
前年7月比20%減	4,695 円
前年7月比30%減	5,050 円
前年7月比40%減	5,404 円
前年7月比50%減	5,759 円

※このPDFは、出所を明記さえすれば、ご自由に転載してもかまいません。